

【資料】

管理栄養士養成課程学生を対象とする iPad の動画撮影機能を 活用したコミュニケーション力の向上のための 教育プログラムの効果の評価

藤 井 絃 子

Evaluation of an Educational Program for Improving Communication Skills by Taking
Videos with iPad for Registered Dietitian Students before Graduation in Japan

Hiroko Fujii

抄 録

目的：管理栄養士養成課程学生におけるコミュニケーション力の向上を目指した効果的な教育プログラムを検討するにあたり、iPad の動画撮影機能を活用した教育プログラムを試験的に
行い、その効果を検証することを本研究の目的とした。

方法：管理栄養士養成施設1施設に在籍する3年次的女子学生のうち、本研究の教育プログラム
を含む授業を履修した79人を対象とし、教育プログラム実施後に自記式質問紙調査を実施した（有
効回答率97.4%）。教育プログラムは、自己紹介、個人対象の栄養教育のロールプレイングと集団
対象の栄養教育のプレゼンテーションの様子を各自の iPad で動画撮影し、その映像をもとに各自
のコミュニケーション力を客観的に評価し、今後のコミュニケーション力の向上のために必要な改
善点と目標を設定し、実行につなげるものであった。調査内容は、話している時及び聴いている時
における自己の表現のイメージと実際（動画）の一致度、課題発見の有無及びその内容とした。

結果：自己の表現についてのイメージと実際（動画）の一致度については、「一致していな
かった」または「どちらかといえば一致していた」と回答した者の割合は、話している時で全
体の44.2%、聴いている時で67.0%であり、自己の表現についてのイメージと実際（動画）の
一致度は、話している時の方が聴いている時よりも低い傾向がみられた。また、iPad の動画撮
影を通して自分のコミュニケーション力を高めるための課題を発見することが「できた」と回
答した者の割合は、97.5%であった。

結論：本研究の結果、管理栄養士養成課程学生を対象とした iPad の動画撮影機能を活用した
教育プログラムは、コミュニケーション力の向上のための課題発見に有用である可能性が示唆
された。

緒 言

管理栄養士養成課程モデルコアカリキュラムにおいては、表現力を高めるための目標として、
「栄養専門職として、対象者、同僚、関連専門職、地域社会との信頼関係を確立できるようにコ
ミュニケーション能力の向上を図ること」が掲げられている¹⁾。

栄養教育を実施するにあたっては、コミュニケーション技術やプレゼンテーション技術が求められる。これらの技術は体験を通してこそ身に付けることができる点が多く、事前練習を十分に行い、よりよい栄養教育の実施に向けて改善を重ねていくことが技術の向上につながる。そして、体験を積み重ねていく過程において、自己の表現を客観的に評価することにより、まずは自ら問題点に気づくことが重要である。栄養教育の場における教育者と対象者のやりとりは信頼関係のもとに成り立つものであることから、教育者が信頼される態度や行動をとれていることが大切である。

そこで、本年度の栄養教育実習Ⅱの授業に、学生が自らの表現の状況を iPad の動画撮影機能を用いて撮影し、その動画を振り返って課題を発見し、改善に取り組む活動（コミュニケーション力の向上を目指した教育プログラム）を取り入れた。本年度の授業にこのような取り組みを行った背景には、2015年度入学生（現3年生）に iPad が配布されていることが挙げられる。本研究では、iPad の動画撮影機能を活用した、コミュニケーション力の向上を目指した教育プログラムを試験的にを行い、その効果を検証することを目的とする。

方 法

1) 対象者及び研究デザイン

管理栄養士養成課程である広島文教女子大学人間科学部人間栄養学科に、平成27年度3年次の在籍する女子学生で栄養教育実習Ⅱを履修した79人を対象とした。研究デザインは、教育プログラム実施後にのみ評価を行うケーススタディデザインである。

2) 教育プログラム

表1に教育プログラムにおける活動内容を示す。自己紹介、個人対象の栄養教育のロールプレイング及び集団対象の栄養教育のプレゼンテーションの様子を各自の iPad で動画撮影し、その映像をもとに各自のコミュニケーション力について客観的に評価を行った。そして、今後のコミュニケーション力の向上のために必要な改善点と目標を設定し、実行につなげることとした。

表1 教育プログラムにおける活動内容

活 動	内 容
自 己 紹 介	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格について、1分間スピーチ（400字程度）の原稿を作成する。 ・スピーチの内容は、氏名・挨拶、性格の強みとなるところ、性格の弱みになる可能性のあるところ、まとめのメッセージを含むこととした。 ・クラス全員の前で発表する。
個人対象の栄養教育	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームに該当する55歳女性を対象に減量を目的とした個人対象の栄養教育のシナリオ（5～10分程度）を作成する。 ・3人のグループとなり、栄養士役、対象者役、記録係を順番に担当する。作成したシナリオをもとに栄養士役と対象者役がロールプレイングを行う。
集団対象の栄養教育	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームに該当する40歳代男性20名を対象に減量を目的とした集団対象の栄養教育（15分程度）の指導案を作成する。 ・3～4人のグループで、指導案を再考し、それに基づき栄養教育プログラムを組み立て、実施する。

3) 調査方法

無記名の自記式質問紙調査を平成27年7月下旬の特定の授業時間内に実施した。調査の実施にあたり、調査の目的を口頭及び文書にて説明し、調査票の提出をもって調査への協力が得ら

れたものと判断した。全ての対象者より調査票が提出され（回収率100%）、有効回答率は97.4%であった。

4) 調査内容

質問紙の設問では、実際（動画）の自分の様子がどの程度イメージと一致しているかを話している時と聴いている時について尋ねた。また、授業での iPad 動画撮影を通して、自分のコミュニケーション力を高めるための課題を発見の有無とその内容を尋ねた。表2に具体的な設問内容と回答選択肢を示す。

表2 設問内容及び回答選択肢

項目	設問内容	回答選択肢
話している時のイメージとの一致度	動画の話している時の自分の様子は、イメージと一致していましたか。 〈単一回答〉	1) 一致していた 2) どちらかといえば一致していた 3) どちらかといえば一致していなかった 4) 一致していなかった
聴いている時のイメージとの一致度	動画の聴いている時の自分の様子は、イメージと一致していましたか。 〈単一回答〉	1) 一致していた 2) どちらかといえば一致していた 3) どちらかといえば一致していなかった 4) 一致していなかった
課題発見の有無	授業での iPad 動画撮影を通して、自分のコミュニケーション力を高めるための課題（改善するとよくなる点）を発見することができましたか。 〈単一回答〉	1) できた 2) できなかった
課題発見の内容	次の項目のうち、自分のコミュニケーション力を高めるための課題（改善するとよくなる点）はどの項目にあてはまりますか。 〈複数回答〉	1) 表情 2) 視線 3) 動作 4) 姿勢 5) 話すスピード 6) 声の大きさ 7) 言葉づかい 8) その他

5) 統計解析

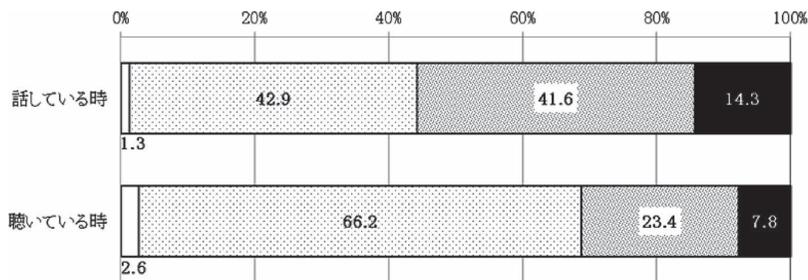
単純集計を行い、本教育プログラムの効果を評価した。統計解析ソフトには IBM SPSS Version 21.0 を用いた。

結 果

(1) 自己の表現についてのイメージと実際（動画）の一致度

図1に自己の表現についてのイメージと実際（動画）の一致度を示す。話している時については「一致していた」と回答した者の割合は1.3%（1人）、「どちらかといえば一致していた」と回答した者の割合は42.9%（33人）であり、これらを合わせると44.2%（34人）であった。つまり、半数以上の者が「一致していなかった」または「どちらかといえば一致していなかった」と回答していた。

聴いている時については「一致していた」と回答した者の割合は2.6%（2人）、「どちらかといえば一致していた」と回答した者の割合は64.6%（51人）であり、これらを合わせると67.0%（53人）であった。



□一致していた □どちらかといえば一致していた □どちらかといえば一致していなかった ■一致していなかった

図1 自己の表現についてのイメージと実際（動画）の一致度（n=77）

自己の表現についてのイメージと実際（動画）の一致度は、話している時の方が聴いている時よりも低い傾向がみられた。

(2) 課題発見の状況

図2に課題発見の有無を示す。iPadの動画撮影を通して、自分のコミュニケーション力を高めるための課題を発見することが「できた」と回答した者の割合は、97.5%（77人）であった。



□できた ■できなかった

図2 課題発見の有無（n=77）

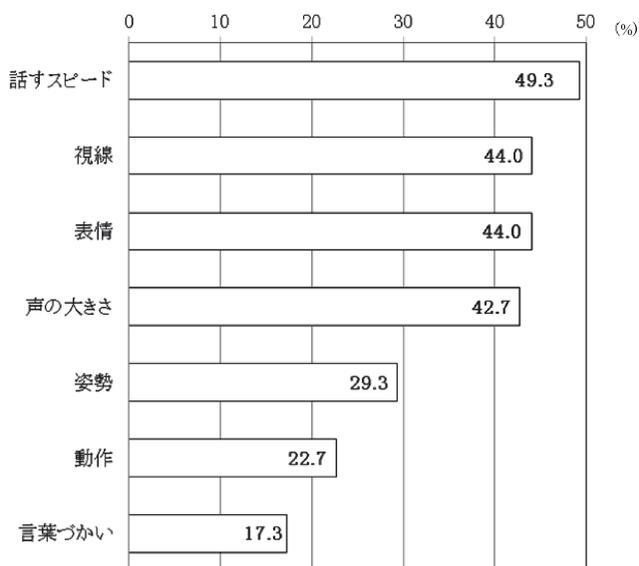


図3 課題発見の内容（n=75）

図 3 に発見した課題の内容を示す。課題を発見できた75人について、その内容を調査したところ、最も多くの者が選択した項目は「話すスピード」であり、その割合は49.3%、2番目が「表情」と「視線」で44.0%（33人）であった。4番目が「声の大きさ」で42.7%であった。

ま と め

本研究では、管理栄養士養成課程1施設の3年生を対象として、栄養教育に関わる授業において、iPadの動画撮影機能を活用した、コミュニケーション力の向上を目指した教育プログラムを試験的に行い、その効果の検証を行った。対象者全体97.5%に該当する学生が、本教育プログラムの活動を通して、各自のコミュニケーションの課題を発見することができたことから、動画撮影機能は課題発見に役立つツールの一つであることが示唆された。一方、コミュニケーション力の向上のためには、見つかった課題の解決に向けての今後の取り組みが重要である。

また、今回の教育プログラムでは、コミュニケーション力の向上のために必要な改善点と目標を自ら設定し、実行につなげるというであった。本教育プログラムは大学生に求められる主体的に学ぶ力²⁾を高めることにも有用なものとなることが期待される。

謝 辞

本研究は、本学の平成27年度教育・研究支援プログラム高等教育・実践 GP 助成「iPadの動画撮影機能を活用したコミュニケーション力の向上を目指した教育プログラムに関する研究」として行われたものである。

文 献

- 1) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事会：「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の提案、栄養学雑誌 67: 202-232, 2009.
- 2) 文部科学省新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm（アクセス日 2015.9.21）

—平成28年1月22日 受理—